

## 「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成研修」報告書

令和4年1月17日（月）～1月18日（水）

### 【目的・趣旨／概要】

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を養成する。

### 【参加者】

対象：青少年教育施設で勤務している方  
青少年教育施設職員を目指している方 20名程度  
実績：16名（男性13名、女性3名）

### 【プログラム概要】

#### 1月17日（月） 1日目

【集合・受付】 10時30分～11時00分

【開講式】 11時00分～11時30分

【ガイダンス】 11時30分～12時00分

自然体験活動指導者の役割や制度についての説明後、自己紹介カードを使用して参加同士の交流を行った。

【昼食】 12時00分～13時00分

【青少年教育における体験活動】 13時00分～14時30分

講師：北見 靖直（国立那須甲子青少年自然の家 次長）

青少年教育における体験活動の重要性やコロナ禍における体験活動の意義や効果について講師の具体的な事例などを用いて理解を深めた。

【対象者理解】 14時30分～16時00分

講師：野口 和行氏（慶応義塾大学 教授）

カリキュラムに沿った、対象者を理解するための基礎基本知識のお話に加え、個別的理解について参加者が事業等で使用している申込書を基に、対象者に対して何を聞き取る必要があるのか、また、対象者を理解するためにさらに聞き取るべき情報についてのグループワークや問題行動における内面的理由についてのケースワークを実施した。

【休憩】 16時00分～16時30分

【自然体験活動の安全管理Ⅰ】 16時30分～18時00分

講師：高橋 博氏（埼玉県立名栗げんきプラザ 所長）

安全管理について、各施設のコロナの対応を共有や、リスクアセスメントについて実際のキャンプ中の写真を基に、KYT（危険予知トレーニング）などを実施した。

【夕食】 18時00分～19時00分

【自然体験活動の安全管理Ⅱ】 19時00分～20時30分

後半は、実際に施設で発生した事件・事故についての事例紹介や事故を回避するために指導者として心掛ける必要のある準備・実施・事後についてのポイントをお話いただいた。

【入浴】 20時30分～22時00分

#### 1月18日（火） 2日目

【朝散歩】 6時30分～7時00分

オプションプログラムとして、かたらいの丘までの散歩を実施した。

【朝食】 7時20分～8時00分

<p>【自然体験活動の技術Ⅰ】 8時30分～10時00分  講師：古谷 洋祐（国立那須甲子青少年自然の家）  アイスブレイクを体験し、プログラムについての目的・ねらいなどについての意図開きを行った。</p>
<p>【自然体験活動の技術Ⅱ】 11時00分～15時00分  講師：真山 高士 氏（NPO 法人那須高原自然学校 理事長）  会場を那須高原ビジターセンターに移し、センター内の展示物等を使った参加者主体型のミニガイド実習と、小刀を使用したクラフト活動を昼食を挟んで実施した。</p>
<p>【自然体験活動の特質】 15時00分～18時00分  講師：菅原 遊 氏（フリーランス）  地域の環境やフィールドの特性を理解した上で、実施する体験活動プログラムを実体験した。アニマルトラッキングなどの外で実施するアクティビティやエコバスケット・森のふくわらいなど荒天時のアクティビティも実施した。</p>
<p>【夕食】 18時30分～19時00分</p>
<p>【自然体験活動の技術Ⅲ】 19時00分～21時00分  講師：菅原 遊 氏（フリーランス）  施設の夜のプログラムを実体験する機会として、スノーシューを使用したナイトハイクを実施した。途中でソロビバークを実施し、参加者にとって貴重な体験となった。</p>
<p>【入浴】 21時00分～22時00分</p>
<p>1月19日（水） 3日目</p>
<p>【朝食】 7時20分～8時00分</p>
<p>【自然体験活動の指導】 9時00分～10時30分  講師：北見 靖直（国立那須甲子青少年自然の家 次長）  自然体験活動を実施する上で指導者が心掛けておきたいポイントや声掛けの仕方、フィードバックの方法など、グループワークをしながら実施した。</p>
<p>【ガイダンス・試験】 10時30分～11時30分  自然体験活動指導者の登録方法や申請などの説明と認定試験を実施した。</p>
<p>【閉講式】 11時30分～12時00分</p>

## 【成果】

- ・研修対象者を青少年教育施設職員に限定したことで、より実態にそった研修内容や活動にすることができた。また、対象者が絞れているからこそその共通の話題やテーマなど、参加者同士意見交換することができ、指導者としての基礎基本+αの研修を実施することができた。
- ・2日目の会場を那須高原ビジターセンターにしたことで、研修内容をより濃くすることができたことと、施設内だけでなく那須エリアの環境も知ることで地域の体験活動を考えるきっかけや幅を広げることができた。
- ・参加者の皆さんが研修に対して前向きに取り組んでいただいたからこそ、研修中の雰囲気も良く、アンケートについても好評をいただくことができた。

### 《参加者の声》

- ・なかなかできない貴重な体験ができた。
- ・那須甲子のフィールドをフルで活かした体験ができて良かった。
- ・これまでの指導者としての感覚だけで継続してきたが、言語化・差別化、抽象化の大切さを感じた。
- ・自然のすばらしさや、人とのつながりの大切さを感じた三日間でした。
- ・講義の演習のバランスがよく、大変学びになった。

## 【課題と方策】

- ・ 企画の段階で、初日は座学、二日目は体験、三日目は落とし込みとしての展開を想定したが、初日はいきなり講義から始まってしまったため、参加者間のアイスブレイクが不十分であった。講義内でグループワークをするなど、当初から想定できていたため、アイスブレイクの時間をある程度取る必要があった。
- ・ 研修内容について、自然体験活動初心者向けではなく、一步踏み込んだ内容にしたため、安全管理のコマなどは一部難しいと感じた参加者もいた。しかし、いずれは考える（気づく）話題提供であったため、先を見据えた研修内容としては良かったのではないかと考える。
- ・ 雪の中の研修ということで、夜の活動については事前の下見を行っていただいたにも関わらず道迷いすることがあった。木に目印をするなど対応が必要だと感じた。

国立那須甲子青少年自然の家〔作成〕事業推進係 古谷 洋祐



